



414
A 617
23



一島津久光殿御辭職以來東西に奔走スル激造等ノ
 事實ヲ探聞スルニ當今ノ處ニテハ容易ニ事ヲ發セザ
 ル見込ノ由也今日ノ見込ニハ旧冬、議西郷隆盛殿ノ
 出京ヲ待テ寛ク事ヲ謀ラント藏シ居ル由暴動暗
 殺ナド申ス一ハ決シテ致スマレク若シ隆盛殿ノ出京
 モ無ク己レ等が見込モ相違シ兵ヲ舉ル一モ不出未
 シテ既ニ網ニカ、ラントスル場合ニ至リ候ハ必ず暗殺
 杯ドノ事モ難計候得共深ク謀リ十分ニ事ヲ成ス
 ノ見込アル故ニ粗暴ノ一ハ容易ニハ致サル由
 一久光殿腹心中山志を衛門ト西郷隆盛殿が互ニ異
 論アリテスレ合ヒ居リ久光殿國ニ在ルトキ志を衛門ハ
 近習頭ニテ威權ヲ執リシ人物ニテ既ニ伏見一舉ノ

大正十一年四月
隈侯爵郵寄贈

(19)



節ハ西郷殿ヲ久光殿ニ護言シ遠島ニ行ヒタル主謀
ニテ是迄國本ニテ人望モ無之戊辰ノ際ニ至テハ西郷
殿威權ヲ專ラニセラレ其節ハ押シメラレテ居タル由
忠左衛門ハ格別ノ才氣モ無之ト通りノ人物ナレ故
此者久光殿ノ側ニ相勤メ居ル候テハ決シテ西郷殿
ハ出京致サレマジキ由

一久光殿ノ人ト成リテ探聞スルニ如シク漢學ノ文才ア
レ凡華族ノ名稱ト學才ヲ取ラバト通りノ平人
ヨリモ劣リタル方ニテ更ラニ旧習ヲモ不脱士族以下
ノ者ハ何程ノ才智アリテモ用ユルヲ不知唯旧臣
海江田内田中山榑原等ノ輩ノミヲ用テ他ノ人
ヲ用ユル才氣ナク人ヲ見ルノカラハ固ヨリ無之只
華族デアレバ馬鹿デモ同席シテ事ヲ語り他ノ者

ナレバ士族ニテモ容易ニ席ヲ同セズ如此偏屈ノ方
故申々廣ク天下ノ事ヲ取ルト出キ又人ナリト云フ
既ニ昨年五六月ノ頃西三人ノ風説ヲ信ジテ大隈
參議殿ヲ黜ケントシテ其トナラズ衆人ニ笑レタリ過日
又太政大臣ヲ黜ケント欲レテ建言セシニ是亦ナラズシテ
職ヲ辞シ實ニ大臣ノ官ニ在テオノ如キ浮説ヲ
用ヒ失策ノミ多キ御人物ナレバ如何ニ
天子ト雖凡御委任難被成ハ御尤ノトナリト申者モ
有之候

一當今一般ノ衆議ヲ探聞スルニ天下ノ興廢ヲナシ國
家ヲ維持スルノ人物ハ旧參議西郷殿ノ外無カル
可シト申居候政府ニ於テ能ク西郷隆盛殿ノ
進退ヲ見テ事ヲ施サバ決シテ國家ノ憂無カル

可レトノ由

一 島津忠義弟宇津彦國論ヲ持シテ先般上京セシ
処區々タル議論ニテ結局モ無之由風聞有之候
右聞上ノ儘上申候也

八年十一月